

第7回 ITER機構職員募集説明会(東海)でのQ&A

1. 日時・場所

平成20年7月31日(木) 18:30~19:30
テクノ交流館 リコッティ 3階 第1・2会議室
〒319-1118 茨城県那珂郡東海村舟石川駅東三丁目1番1号

2. 参加者：9名

3. 説明内容

- 1). ITER計画について 北澤真一 (ITER計画管理グループ)
- 2) ITER機構職員公募の面接試験について 安東俊郎 (ITER協力調整グループ・サブリーダー)

4. 説明会でのQ&A

Q1) グレードと給与の関係は？

A1) 現在の給与の額についての詳細は分かりませんが、拠点があるフランスと日本の物価の差を考えても、高い水準です。例えば、日本のポストクの方が、P3の職に付けば、現在の為替レートでは2倍程度の給与だと思われます。

Q2) 同じ公募時期に複数のポジションを受けることはできるのか？

A2) 複数を受けることはできます。締め切りが違うものでも、大丈夫です。(コメント：同時に3ポジションまでの応募が可能です)

Q3) 出願してから採用が決まるまでの期間はどれくらいか？

A3) 応募書類を提出後、面接の通知が約4週間後に届き、採用通知はその4-6週間後、着任までは3-5ヶ月後というのが通常のスケジュールです。

Q4) ITER機構では、仕事の教育訓練はあるのか？

A4) 新人教育訓練を業務とするポストが募集されており、教育訓練ができる体制を準備しているようです。これと関連して、生活面の支援については、ITERフランスという支援機関が新規採用者のために支援してくれます。原子力機構も、現地の日本人スタッフを支援しています。また、マノスクに国際学校があり、今は暫定校舎であるが、来年9月には新しい校舎が完成する予定です。

Q5) 職務表以外で、職務内容に関する他の情報はあるのか？

A5) ジョブディスクリプションに募集されるポスト毎に業務内容、責任、資格などが具体的に記述されています。

Q6) 採用者は、即戦力か？

A6) ITER機構は即戦力として採用します。なお、実際には、面接試験での受け答えが上手い人ばかりが採用されていて、即戦力となっていないと聞いています。日本人は、書類審査で通っても、面接試験で良い点を取れないので、合格率が低い状況です。(コメント：これは、非常に残念なことですので、現在、面接試験を模擬したビデオを作成して、皆さんが事前準備ができるようにすることを考えています)

Q 7) 最初の半年で、不適格と判断されて、解雇されて帰国した場合、原子力機構に safety net はあるのか？

A 7) 原子力機構に safety net はありません。初めの半年は試用期間であり、業務の内容が悪いと評価される場合は、ITER 機構は解雇できるという規則があります。(コメント：日本からの採用者で、これまでに解雇された事例はありません)